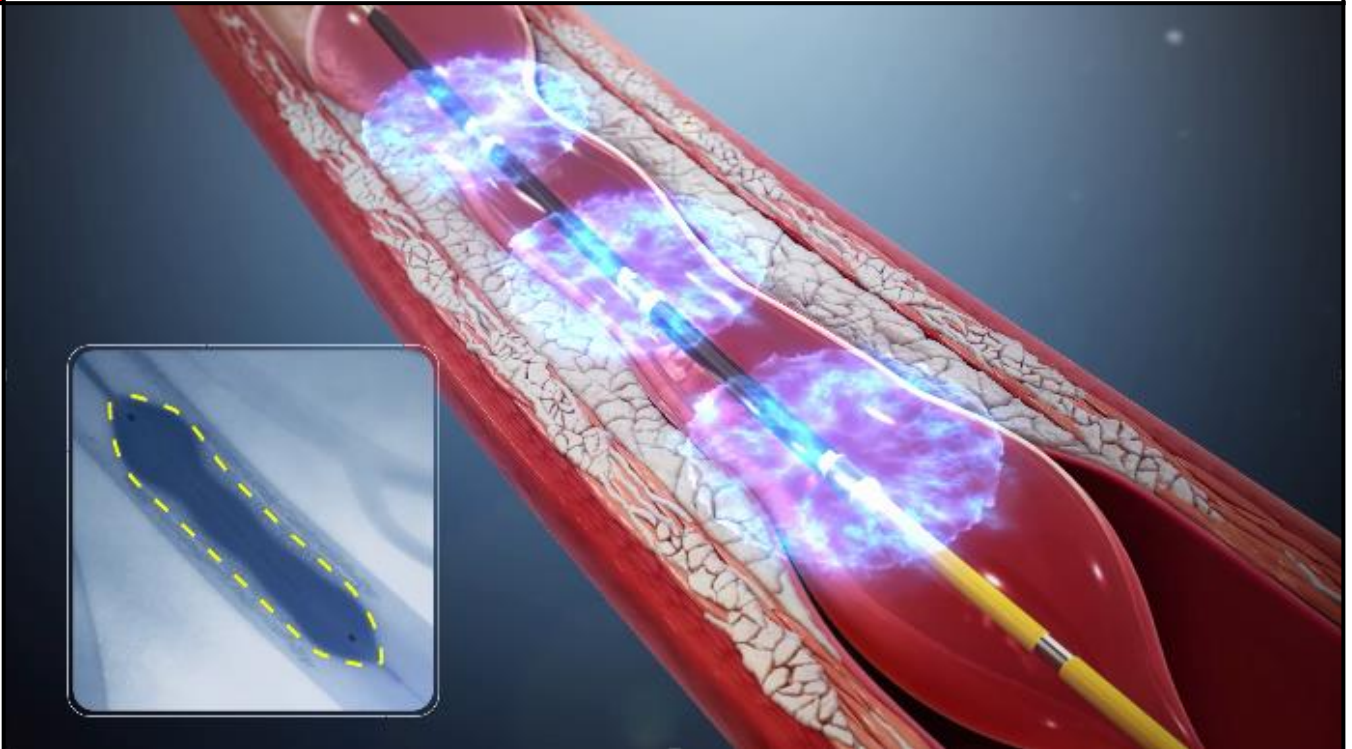


ショックウェーブカテーテル 血管内石灰化破碎術 *IVL* 開始しました

荻窪病院
地域連携ニュース
7月



衝撃波が血管壁を通過し 深部の石灰化を砕く

狭心症に対するカテーテル治療は近年、ステントの改良により治療成績は飛躍的に改善しました。しかし、石灰化病変はステントの拡張不良により血栓症や再狭窄が依然として多いのが現状です。従来石灰化病変にはロータブレード（図1）やダイヤモンドバック（図2）といった高速回転式のデバイスで石灰化を掘削する治療を行なってきました。

石灰化をドリルで掘削することで石灰化の容積を減らすことができる一方で血管穿孔や削りカスによる末梢塞栓が問題になることもありました。

本年6月より当院で新たな治療デバイスとしてショックウェーブが使用可能になりました。

ショックウェーブカテーテルを用いた血管内破碎術（IVL：Intravascular Lithotripsy）は腎結石治療の原理を応用し、衝撃波（音圧波）により石灰化を破



●心臓血管センター循環器内科医長
神島 一帆
かみしま かずほ

2004年 聖マリアナ医科大学医学部 卒業
医学博士 日本内科学会総合内科専門医
日本循環器学会循環器専門医
日本心血管インターベンション治療学会専門医
「学生時代は野球、スキー、フットサルなどやっていました。これからゴルフを趣味にしたいです」

図1 ロータブレード

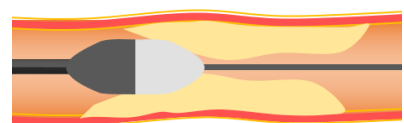
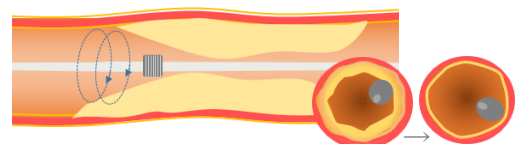


図2 ダイヤモンドバック



砕します（右図）。石灰化を破碎することでこれまでバルーンやステントが十分拡張できなかった病変も拡張することが可能になります。

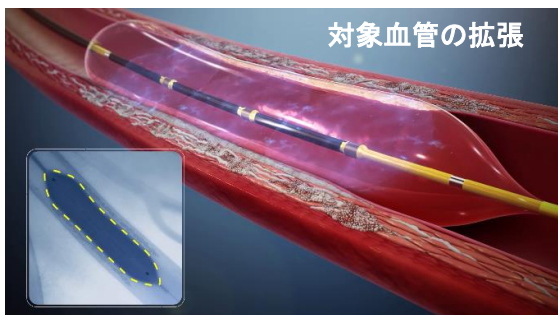
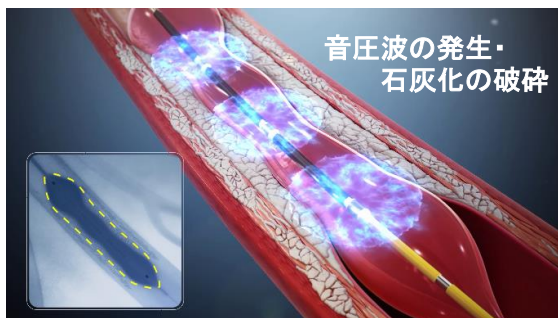
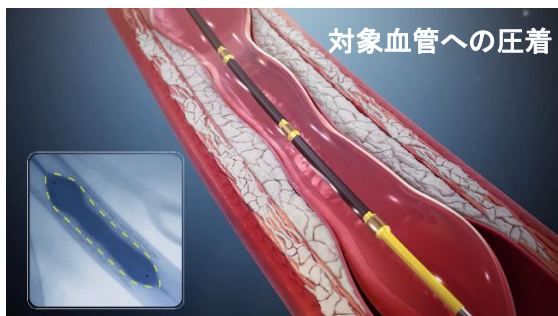
血管穿孔や末梢塞栓も 低リスクに

また、血管穿孔のリスクが低く、破碎後も石灰化病変は血管中膜と外膜の間に留まるため血管内には漏出しないので、末梢塞栓のリスクも低く安全に治療を行うことができます。

病変によってはロータブレードの方が高い効果を得られる場合もありますので、患者様の血管の状態に合わせて至適なデバイスを選択して治療を行います。

IVLは日本に導入されて1年と新しい治療法ですが、早期に当院で導入し地域の患者様に提供できることを嬉しく思います。既に当院でも治療を行い良好な結果が得られております。

当院ではこれまで蓄積された経験や実績に加えて新しい技術も積極的に取り入れ、患者様に安全で最良の治療を提供してまいります。狭心症でお困りの患者様、地域の先生方に当院でのカテーテル治療がお役に立てれば幸いです。



Information

整形外科

膝関節疾患の 受け入れにつきまして

膝関節センター長 森山一郎医師の8月末の退職に伴い、膝関節疾患でのご紹介の受け入れを停止させて頂いております(APS療法も含む)。これまで多くの患者さんをご紹介いただき、誠にありがとうございました。

膝疾患治療再開の際は、当誌や病院ホームページでお知らせいたします。地域の先生方にはご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

救急科

救急救命士
活動中！



昨年度より救急救命士を救急科に配置し、現在2名が活動中です。当院救急車でのご搬送から初療処置、入院までの緊急対応を行い、救急患者さんのより速やかな受け入れをチームで目指してまいります。

ご紹介・ご相談は

荻窪病院 地域連携室

発行：2024年7月

月～金 8:30～18:30 土 8:30～12:00 TEL 03-3399-0257 FAX 03-3399-0258 〒167-0035 東京都杉並区今川 3-1-24